

# ボーリングマイスター 『匠』東北に認証されて

株式会社福島地下開発 渡辺 栄二



この度、新協地水株式会社様のご推薦により、ボーリングマイスター（匠）の認定を頂きありがとうございました。これまでご指導頂きました諸先輩方や弊社社長、社員の方々、そして協会の皆さんに改めて感謝申し上げます。振り返ると、私の地質調査のキャリアは今年で通算30年経過しました。地質調査の仕事に携わる前は、仙台市内の電子機器関係の専門学校を卒業後、地元の工場に就職しました。数年勤務したのですが、職場の環境にあまり馴染めず退職しました。

その後、ハローワークで『地質調査員募集』というキーワードになぜか心を奪われ、意を決し転職しました。当時は現在のようなネット環境ではなかったので、自分が実際に地質調査の業務に携わるまでどのような仕事をするのか正直よくわかりませんでした。

それでも地質調査という職種で働きながらやりがいを感じ、専門的な知識や技能、ノウハウを少しずつ習得しました。まず、助手の作業をマスターして、マシンの操作ができる様になり、ようやくオペレーターとして仕事を任せてもらうようになりました。その頃、学生時代の仲間と飲み会をした際、どんな仕事をしているの？と友人たちに聞かれ、地質調査と答えると大抵の人がどのような仕事なのか理解してもらえず、自分なりにわかりやすく説明すると、『おもしろそうな仕事とか学術的要素が高いとか地図に残る仕事でやりがいがあるね。』と回答を頂き、友人から自分の職種に関して理解をしてもらえたのが、今では懐かしい思い出です。

ところで話は現場に戻りますが、昔は市街地での現場が主流だった気がしますが、近年は急傾斜地の法面など崩壊性が進む災害現場や砂防堰堤などの山間部の現場が増え、搬入時はボーリングマシンを分解して数百メートル設置したモノレールで小運搬する現場を担当するのが多くなりました。

山間部の現場は、平坦地の現場と比べると、仮設の難易度やコアを採取する技術的なハードルが高くなり、計画どおり作業が進みません。それでも、試行錯誤しながら地層に一致するビットを選定してコアパックを用い、自分が納得するコアを採取できた時の感動は、これまでの苦労を忘れさせてくれます。なんとなくといういつもの自分のフィードバックでオペレーションを行い、深度毎にコアチューブを回収して採取したコアをコア箱へ収納する際、コア箱の列からはみ出すような50cm以上の棒状コアや連続する15cm程度の片状コアなどを目視にて確認できると、半信半疑だった自分から自信に満ち溢れた自分に生まれ変われます。当然、このように上手くいく場合もあれば失敗する時もあり、極力、プロなので失敗はしない様にしなければなりません。現場が変われば当然、地層や作業条件も変わりますが、どこの現場でも自分が納得するコアをいかに素早く、正確に採取できるかの試行錯誤の繰り返しです。これからも自分自身の更なる実績を積み重ね、若手社員には、オペレーターの育成と危険度の高い作業の際には、退避の仕方を徹底させるなど創意工夫をもって技術研鑽に努めると共に、同業者にも保有技術を共有して地質調査業全体のレベルアップが図れたら幸いです。

最後になりますが、（一社）東北地質調査業協会の皆様のご発展をご祈念申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

